

毎日が、あなたの日。



U G H D

UNY Group Holdings

2014年2月期第2四半期 決算説明会

2013年10月7日

代表取締役会長 最高経営責任者（C E O）
前村 哲路

グループ成長戦略の進捗

1. グループ商品戦略の進捗

●ユニーグループ・シナジー5カ年計画

		1年	3年 累計	5年 累計	合計
商流	取引条件の見直し	○	○		70 億円
	ベンダー政策	○	○		
	仕入原価統一	○	○	○	
物流	マザーセンター構築		○		14 億円
	物流センターの共有化		○	○	
商品	営業企画の統一	○	○		16 億円
	Style ONE、Prime ONEによる改善	○	○	○	
利益改善合計 (内、FC加盟店分)		12.5 億円 (5億円)	67.0 億円 (27億円)	20.5 億円 (8億円)	100 億円 (40億円)

① “商流”における取り組み状況

PB商品のベンダー統合を実現

この成果を経て、今後NB商品へ取り組みを拡大予定

ベンダー政策



仕入原価の統一



**「一物一価」による
価格競争力の向上**

- ・ 当下期より「スタイルワン」「プライムワン」の帳合をカテゴリーごとに統一
- ・ 帳合統一による取引量の集約により仕入原価を統一
- ・ サークルKサンクス売価をユニー売価に揃え「一物一価」体制を実現
- ・ サークルKサンクスの価格競争力向上で売上増を目指す

② “物流”における取り組み状況

3年目・5年目のシナジー創出に向け
マザーセンター構築・物流センターの共有化は着実に進捗

マザーセンターの構築

- ・ 2013年2月より中京地区にてPB商品の一部で実験・検証を実施
- ・ 2013年10月21日より全PB商品を対象に順次稼動
- ・ 2015/2期下期よりNB商品の飲料を対象に稼動開始予定

物流センターの共有化

- ・ 2015/2期下期より、ユニーとサークルKサンクスの重複するエリアのドライセンターの共同利用を順次開始予定

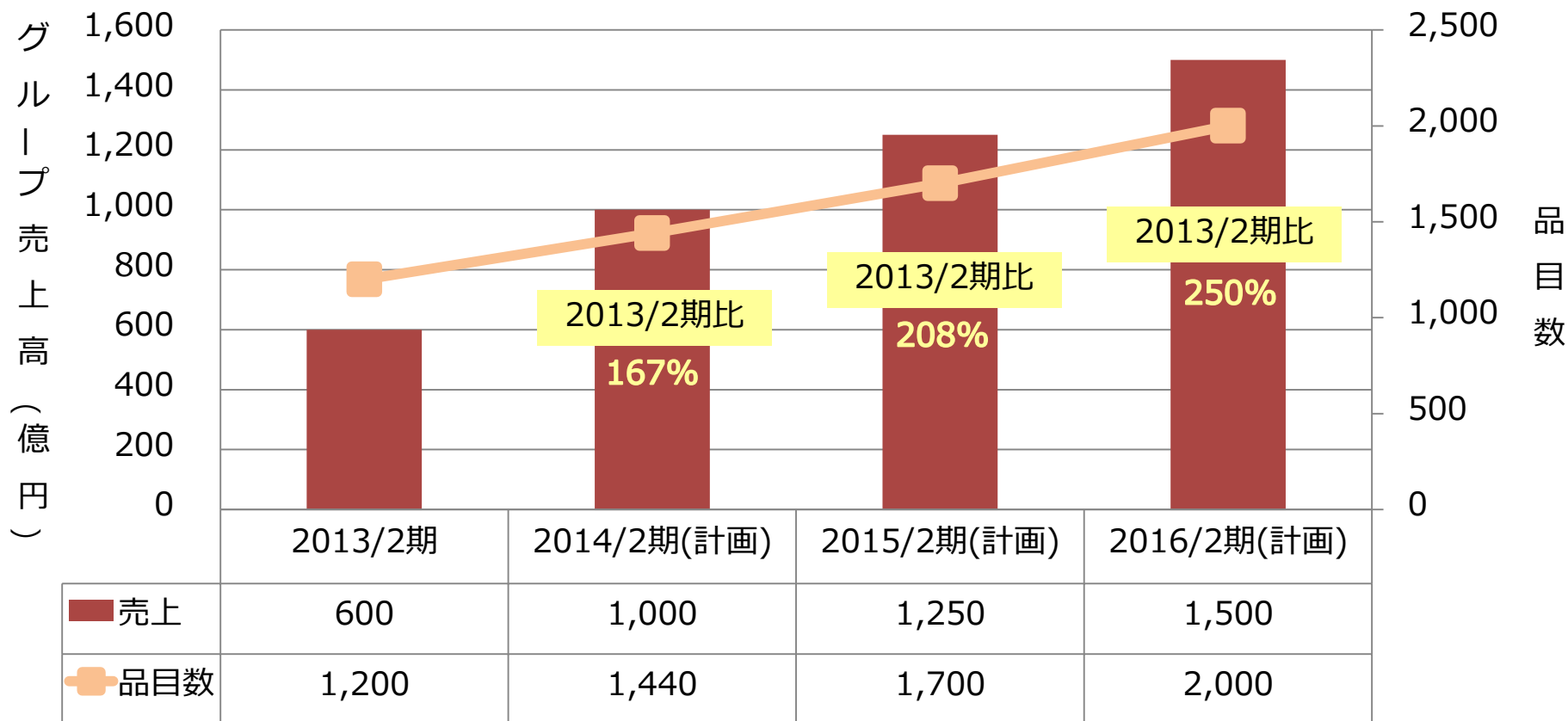
③ “商品”における取り組み状況

スケールメリットを活かした商品開発により
計画達成に向け順調に推移

●グループ開発商品売上高

(単位：億円)	2013/2期		2013/8期			2014/2期(計画)		2016/2期(計画)	
		分類内 構成比		計画 達成率	分類内 構成比		分類内 構成比		分類内 構成比
衣料品	587	53%	284	48.1%	52%	590	55%	-	-
住関品	137	13%	68	40.0%	13%	170	16%	-	-
食料品	702	14%	367	48.3%	15%	760	16%	-	-
ユニー計	1,426	20%	719	47.3%	21%	1,520	22%	1,750	25%
雑貨	46	13%	22	36.7%	14%	60	15%	-	-
食品	2,757	46%	1,440	47.1%	49%	3,060	49%	-	-
CKSU計	2,802	27%	1,461	46.8%	28%	3,120	29%	3,750	35%
2社計	4,228	24%	2,181	47.0%	25%	4,640	26%	5,500	31%

「スタイルワン」「プライムワン」シナジー3カ年計画

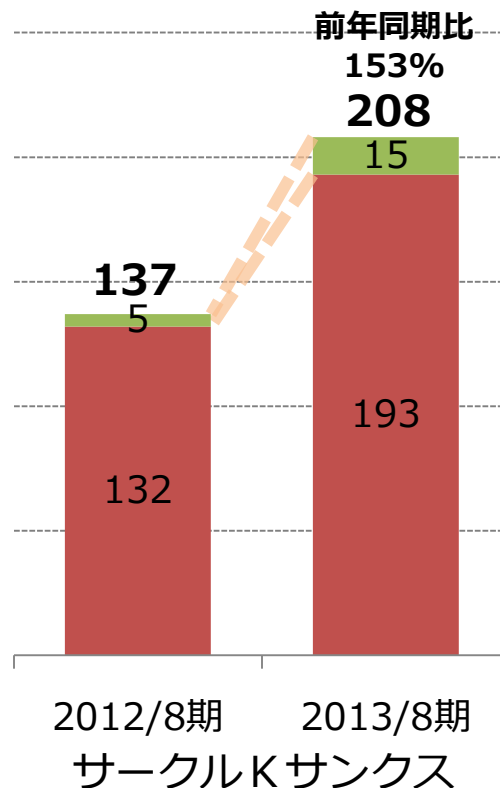
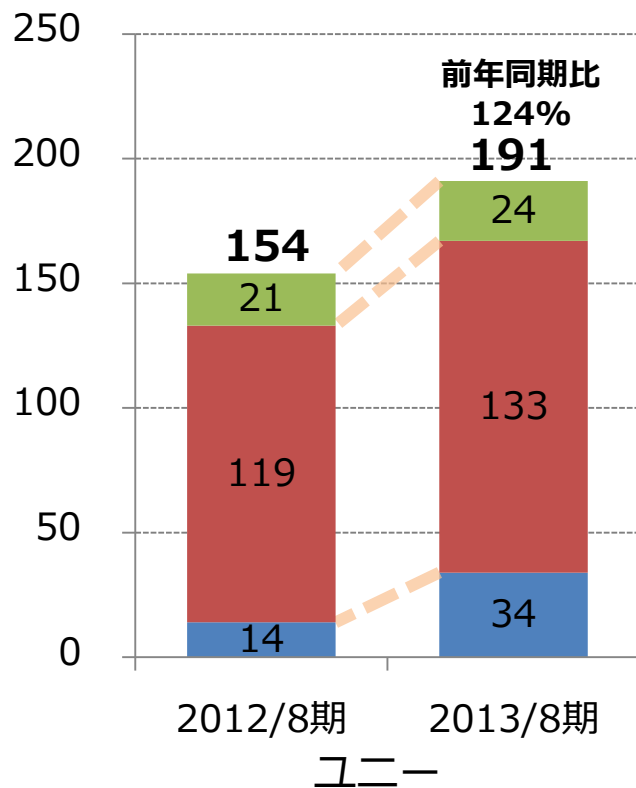


※1. 上表は衣料・その他住関連品を除く食品、日用雑貨の合計

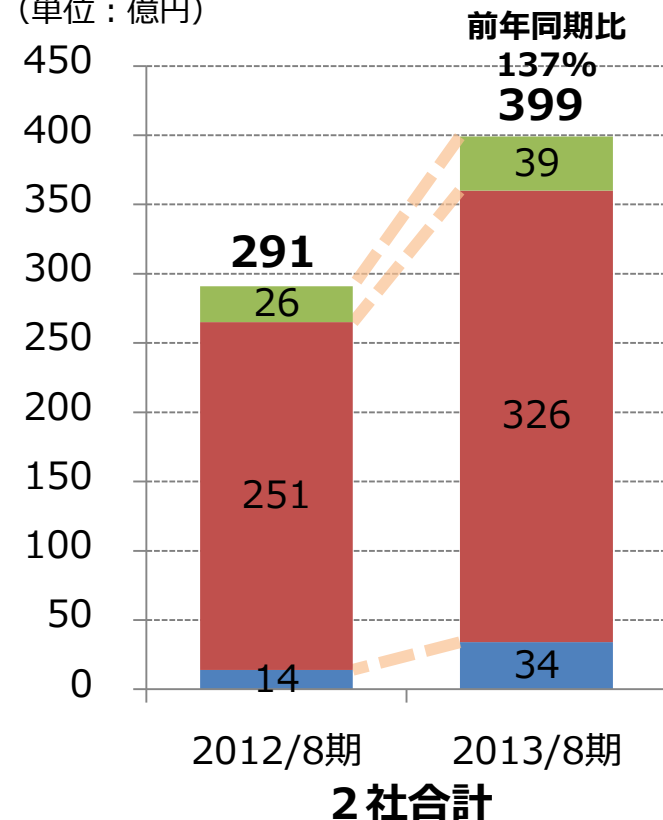
※2. 衣料・その他住関連品を含む「スタイルワン」「プライムワン」の総売上高は下記の通り
 ・2013/2期: 740億円 ・2014/2期(計画): 1,150億円

プライベートブランド売上状況

(単位：億円)



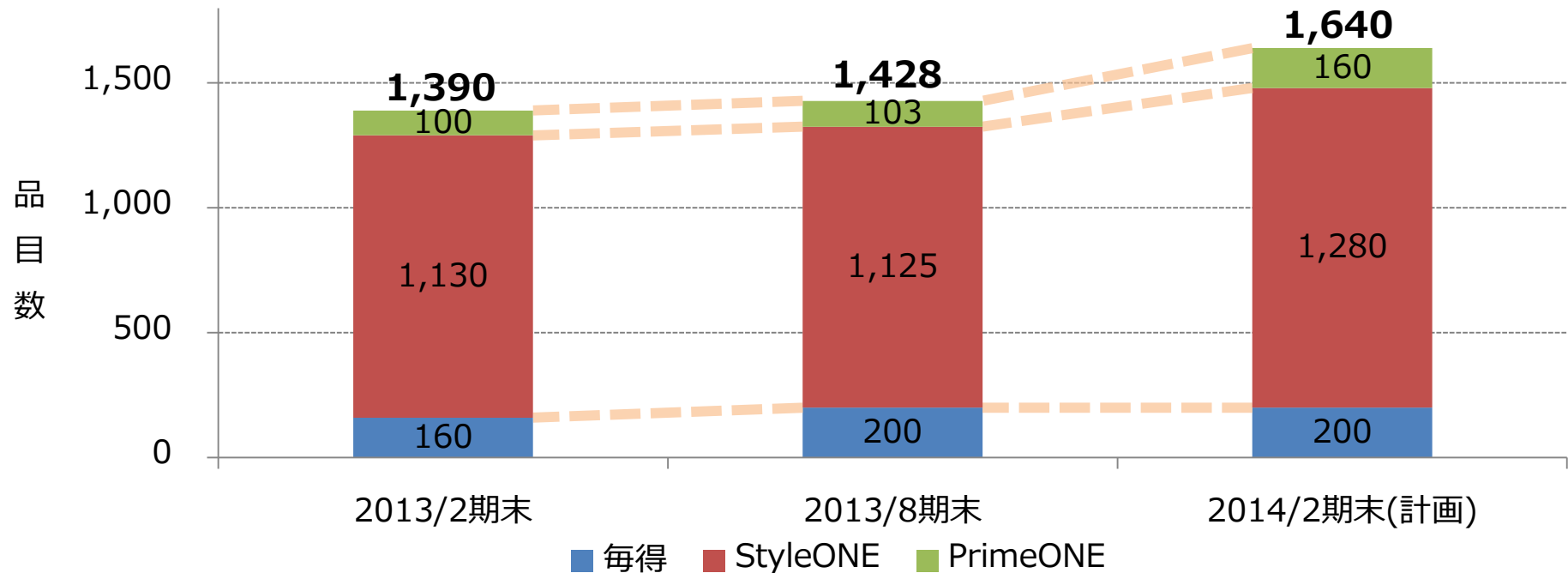
(単位：億円)



■ 毎得 ■ StyleONE ■ PrimeONE

※衣料・その他住関連品を除く食品、日用雑貨の合計

プライベートブランド品目数



※衣料・その他住関連品を除く食品、日用雑貨の合計

**単品販売力の向上を目的に
既存の売れ筋商品のリニューアルを強化**

2014年2月期上期 「スタイルワン」 発売商品



Style ONE
「ブレンドコーヒー 1 L」
¥88



Style ONE
「炭酸水 1 L」
¥98



Style ONE
「厚切りポテトチップス」
¥198



Style ONE LL惣菜
「ポテトサラダ」 ¥118
(16アイテム展開)



Style ONE
「シャインモルト 糖質
50%OFF 350ml/500ml」
¥88/¥125



毎得
「ふんわり食感 (一斤)」
¥78~¥88

「スタイルワン」「プライムワン」パッケージデザインを一新

StyleONE

PrimeONE

旧パッケージ



2. 業態戦略の進捗

ユニー： 当下期「テラスウォーク宮店」グランドオープン予定

1975年当時のアピター宮店



1975年に日本初の郊外型大型店舗として開店した
「アピター宮店」を全面建替え
ユニーの新たな取り組みを集約した旗艦店としてオープン

ユニー：2013年10月11日「アピタ西大和店」グランドオープン



**奈良県下2店舗目となる「アピタ西大和店」を開店
初年度年間売上目標は105億円(テナント売上含む)**

ユニー：店舗開発の状況

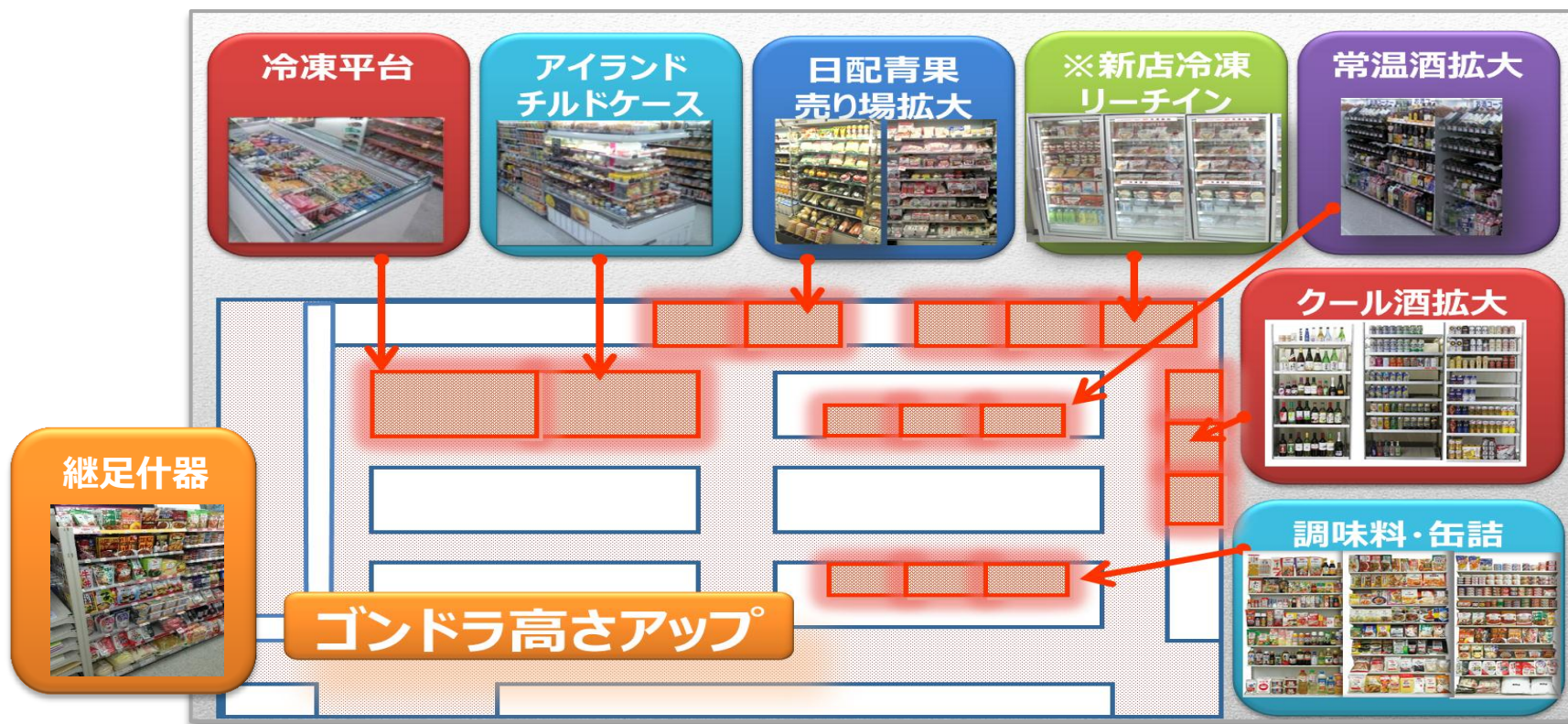
	2014/2期 (計画)		2015/2期 (計画)		2016/2期 (計画)	
投資額	445億円		377億円		290億円	
	アピタ	ピアゴ ユーホーム	アピタ	ピアゴ ユーホーム	アピタ	ピアゴ ユーホーム
新設	A西大和	UH西大和	A桶川、A西尾 P太田川、P白山倉光		検討中	
建替	A一宮	P浜松泉町 PL今池	A稲沢 A長岡 A港店	Pアラタマ P尾西 プロセスセンター (関東・中京・北陸)	A金沢文庫 A岡谷	Pイセザキ P磐田 P岩倉
大型 改装	A初生					

※1. A：アピタ、P：ピアゴ、UH：ユーホーム、PL：ピアゴ ラ フーズコア

※2. 投資金額はリース投資を含む工事ベース

サークルKサンクス：新フォーマットによる小商圏対応力の強化

当下期の新店より小商圏対応フォーマットを投入
ミニスーパー要素により女性・シニア客層を拡大



サークルKサンクス：新什器導入・売場改革の実験検証

●冷凍平台ケース導入によるアイスクリームの拡販

⇒ アイスクリーム：売上前年比117%



●アイランドチルドケース導入によるデザート強化

⇒ デザート：売上前年比125%



●冷凍リーチインケース新設による冷凍食品の拡大

⇒ 冷凍食品：売上前年比233%



●スタイルワンによる日配品・惣菜の強化、青果の拡大

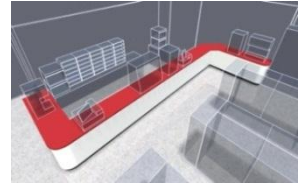
⇒ デイリーフーズ：売上前年比136%



※ 上記数値は実験店舗の平均実績

サークルKサンクス： 既存店への店内設備の前倒し導入

導入店舗において日販押し上げ効果を確認
さらなる既存店強化として前倒し導入を決定

アイランドチルドケース 	上期末 導入店舗数	下期 導入店舗数	2014/2期末 導入店舗数	2015/2期末 導入累計店舗数
	1,006台	+ 316台	1,322台	2,000台
冷凍平台ケース 	上期末 導入店舗数	下期 導入店舗数	2014/2期末 導入店舗数	2015/2期末 導入累計店舗数
	127台	+ 614台	741台	2,000台
カウンター拡張 	上期末 導入店舗数	下期 導入店舗数	2014/2期末 導入店舗数	2015/2期末 導入累計店舗数
	611店	+ 126店	737店	1,000店

サークルKサンクス：商品ランクの集約と品揃えの拡大

『お客様が欲しい商品を欲しい時に揃える』
基本の再徹底により小商圈化への対応を図る



サークルKサンクス：加盟店支援強化による日販向上

加盟店の廃棄リスクを軽減し発注増を後押し
「発注増⇒在庫増⇒売上増⇒発注増」の好循環を確立する

既存店支援策

SV加盟店販促費
(年間20万円/店)を
米飯を中心とした
発注補助に充当

発注アシスト機能
拡充により
発注業務負担
を軽減

新店支援策

開店後2ヶ月間
デイリーフーズの
廃棄補助を実施

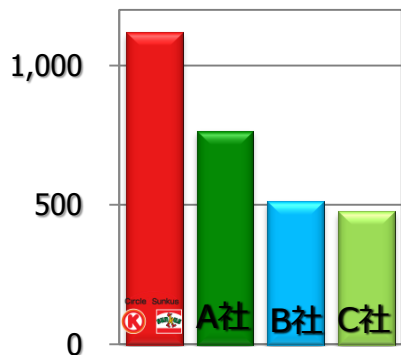
サークルKサンクス：ドミナント出店戦略の推進

当上期は出店の54%を東海・関東圏に集中
今後も収益基盤の東海圏シェアNo.1を維持する

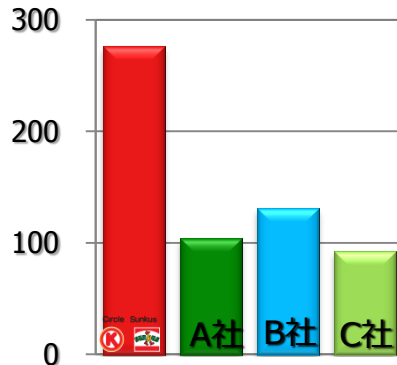
東海圏

店舗数シェアNo.1を維持
店舗純増数でもNo.1に

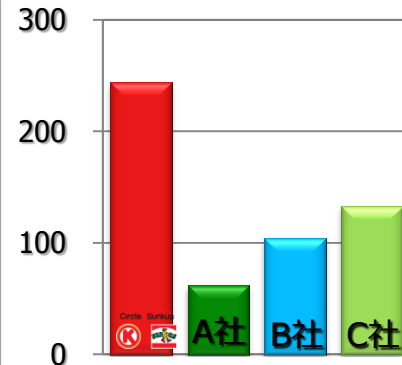
愛知県 店舗数比較



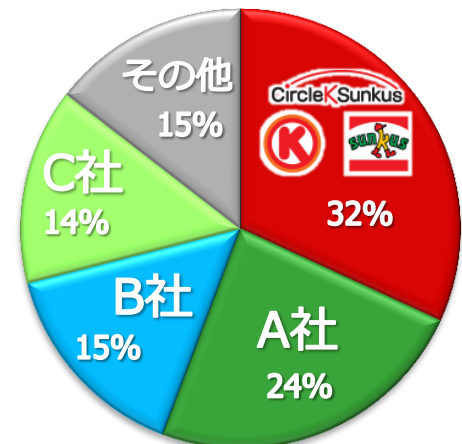
岐阜県 店舗数比較



三重県 店舗数比較



東海圏の店舗数シェア
(愛知・三重・岐阜・静岡の合算値)



※2013年2月末時点

関東圏

成長の見込める
東京・神奈川・千葉・埼玉を再強化

ミニピアゴ：ミニスーパー化を推進

ミニスーパーならではの店づくりを推進
下期より事業拡大に向けた新フォーマットを投入



2013年9月20日開店 ミニピアゴ入船1丁目店

【上期実績と取り組み】既存店前年比113.2%、出店7店、閉店0店、期末店舗数72店舗

- 標準の売場面積を45～55坪に変更
⇒ 下期より新フォーマットを投入し65～100坪に挑戦
- 取り扱いアイテム数を最大3,300品目に拡大
- 生鮮品拡大によるスーパーマーケット化
- クレジット、電子マネーの取り扱いを開始

3. IT戦略の進捗

ユニーグループオリジナル電子マネーを導入

当下期より
ユニー全店導入



ユニーグループ
オリジナル電子マネー

サークルKサンクスは、
2015/2期下期
のPOSレジ入替に
合わせて導入

2014年4月に予定の消費増税後の消費低迷に備え
現金顧客の会員化を進め、
ロイヤルカスタマー化による来店頻度・客単価の向上を目指す

サークルKサンクスに新ポイントカードを導入
圧倒的会員数を誇る楽天スーパーポイントを採用決定



楽天スーパーポイント 
2014年秋 スタート決定！



8,500万人を超える圧倒的会員数をリアル店舗へ送客
顧客情報を活用し、商品開発・営業力を強化

4. 財務・人材戦略の進捗

CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)導入による効果

- ・有利子負債の減少

2013年5月末：270,626百万円(2012年5月末比▲100,528百万円)

- ・支払利息の削減

2014/2期上期実績：1,361百万円(前年同期比▲514百万円)

※上記実績は連結ベース

グループ内人材交流による業態間連携の強化

- ・ミニスーパー要素の導入を進めるサークルKサンクスとの連携を強め、新たなビジネスモデルやイノベーションの創出に取り組む

5. 将来に向けた取り組み ①ニューコンセプトストア

ユニーグループのシナジーを集約した
ニューコンセプトストアを展開予定



※画像はイメージです

スーパーの生鮮品などを付加し、コンビニだけではできない品揃えを実現
量り売り惣菜や焼きたてパンを展開し、消費者の幅広い食のニーズに対応
可処分時間の少ない消費者の求めるクリーニング機能や生活雑貨を充実

② K's CAFE

K's CAFE 中京圏にて展開予定



※画像はイメージです

**コンビニにカフェ機能を統合し、消費者にくつろぎの空間を提供
ブランドロイヤリティを向上させ、中京圏でのブランドを確立**

毎日が、あなたの日。



U G H D

UNY Group Holdings

2014年2月期第2四半期 決算報告

専務取締役 最高財務責任者 (C F O)
越田 次郎

2014年2月期第2四半期 決算概要

- ・ 営業収益の減少、販管費の増加により営業利益および経常利益は減益
- ・ 純利益は主に前年の特別利益の反動により大幅減益

(単位：百万円)	金額	前年同期比	前年同期差	計画差
営業収益	507,130	98.8%	▲6,094	+830
営業総利益	197,848	98.3%	▲3,521	▲6,352
販管費	182,975	101.3%	+2,397	▲2,325
営業利益	14,873	71.5%	▲5,918	▲4,027
経常利益	14,551	72.1%	▲5,626	▲3,749
四半期純利益	5,003	19.2%	▲21,063	▲3,797
		負ののれん発生益(16,471百万円)の反動を除く 52.1%	▲4,592	

セグメント別の状況

- ・ 総合小売事業(GMS)は営業収益が前年比プラスを確保した一方、営業利益が減少
- ・ コンビニエンスストアは営業収益の減少と販管費の増加により減益

(単位：百万円)	営業収益			営業利益		
		前年 同期比	計画差		前年 同期比	計画差
総合小売(GMS)	389,649	100.2%	+4,459	5,597	80.3%	▲1,593
コンビニエンスストア	76,878	94.7%	▲3,322	6,701	58.4%	▲2,479
専門店	33,064	92.3%	▲376	111	40.3%	▲329
金融サービス	8,503	102.5%	+103	2,116	126.0%	+316
その他	9,832	101.3%	+82	435	111.2%	+55
連結計	507,130	98.8%	+830	14,873	71.5%	▲4,027

主要会社の業績 / ユニー



- ・既存店売上は客数の増加により前年比プラスを達成
- ・営業利益は荒利率の低下と販管費の増加により減少

(単位：百万円)	13/8期		特記事項
		前年同期比	
営業収益	375,555	99.6%	－
営業総利益	105,330	99.1%	－
販管費	99,879	100.5%	・人件費：前年同期比97.1%(前年同期差▲1,387百万円) ・水道光熱費：前年同期比107.8%(前年同期差＋481百万円)
営業利益	5,451	79.2%	－
経常利益	4,793	71.3%	・持株会社化に伴い受取配当金がなくなったため 営業外収益が減少(前年同期差▲746百万円)
当期純利益	2,203	63.3%	・減損損失の増加により特別損失が増加 (前年同期差＋227百万円)
既存店前年比	100.3%	(前年同期実績96.6%)	・客数前年比100.7% 客単価前年比99.4%
商品荒利率	24.2%	▲0.1%	・衣料38.0%(▲0.3%) 住関28.0%(+0.1%)、 食品20.2%(▲0.1%)
期末店舗数	227店	前年同期末差＋1店	・出店1店 閉店1店、純増数±0店

※1. 既存店前年比は曜日調整後 ※2. 客数前年比および客単価前年比は曜日調整無し

主要会社の業績 / サークルKサンクス



- ・既存店売上と値入率のマイナスにより営業総利益が減少
- ・既存店強化に伴う投資や広告販促費の増加等により販管費が増加

(単位：百万円)	13/8期(連結)		特記事項
		前年同期比	
営業総収入	76,878	94.7%	－
営業総利益	64,392	97.0%	－
販管費	56,942	105.2%	・ 広告販促費：前年同期比114.8%(前年同期差+491百万円) ・ 賃借料：前年同期比102.9%(前年同期差+638百万円) ・ 減価償却費：前年同期比117.2%(前年同期差+1,159百万円)
営業利益	7,450	60.9%	－
経常利益	7,210	59.9%	－
当期純利益	1,516	27.1%	・ 減損損失の増加により特別損失が増加(前年同期差+3,143百万円)
既存店前年比	96.7%	(前年同期実績96.4%)	・ 客数前年比96.6%、客単価前年比100.1%
商品平均値入率	26.92%	▲0.47%	・ ファーストフードの値入率低下および低値入率のサービス分類の売上増加により低下
期末店舗数	5,868店	前年同期末差+233店	・ 出店240店 閉店107店、純増数+133店

※既存店前年比および商品値入率は単体実績

主要会社の業績 / さが美・パレモ・UCS



● さが美(連結) 主にホームファッション事業の苦戦により減益

(単位：百万円)	12/8期	13/8期(連結)	前年同期比
営業収益	12,421	11,257	90.6%
営業利益	▲306	▲312	—
既存店前年比	100.6%	99.3%	—

● パレモ 既存店売上のマイナスにより減益

(単位：百万円)	12/8期	13/8期	前年同期比
営業収益	20,824	19,226	92.3%
営業利益	531	353	66.4%
既存店前年比	96.8%	96.2%	—

● UCS ショッピングが牽引し増収増益を達成

(単位：百万円)	12/8期	13/8期	前年同期比
営業収益	8,296	8,500	102.5%
営業利益	1,228	1,878	152.9%
カード会員数	320.9万人	311.7万人	97.1%

特別損益の状況

- ・ 負ののれん発生益の反動により特別利益が大幅に減少
- ・ 主にサークルKサンクスの店舗システム入替に係わる減損損失等により特別損失が増加

(単位：百万円)	12/8期	13/8期	前年同期差
特別利益	16,602	1,373	▲15,229
固定資産売却益	67	156	+89
投資有価証券売却益	44	387	+343
受取和解金	－	807	+807
負ののれん発生益	16,471	－	▲16,471
その他	20	22	+2
特別損失	3,745	7,058	+3,313
固定資産処分損	790	532	▲257
投資有価証券評価損	345	－	▲345
減損損失	2,552	4,870	+2,317
店舗システム更新損引当金繰入額	－	1,640	+1,640
その他	57	14	▲43

2014年2月期 業績予想

- ・ 上期実績を踏まえ、営業収益を上方修正し、各利益段階を下方修正

(単位：百万円)	14/2期(修正予想)			当初計画
		前期比	当初計画差	
営業収益	1,032,400	100.2%	+2,600	1,029,800
営業総利益	401,100	100.4%	▲7,300	408,400
販管費	370,000	101.5%	▲2,000	372,000
営業利益	31,100	88.8%	▲5,300	36,400
経常利益	30,500	91.3%	▲4,500	35,000
当期純利益	12,000	39.4%	▲4,700	16,700

セグメント別の業績予想

- ・ 上期実績を踏まえ、営業収益は総合小売業(GMS)を中心に上方修正
営業利益は金融サービス事業とその他事業を除き下方修正

(単位：百万円)	営業収益(修正予想)			当初 計画	営業利益(修正予想)			当初 計画
		前期比	当初 計画差			前期比	当初 計画差	
総合小売(GMS)	799,420	101.0%	+7,090	792,330	15,170	106.5%	▲1,120	16,290
コンビニエンス ストア	151,300	98.0%	▲4,120	155,420	11,260	67.2%	▲4,470	15,730
専門店	66,200	96.0%	+160	66,040	460	—	▲100	560
金融サービス	17,300	103.4%	+300	17,000	3,540	109.5%	+340	3,200
その他	20,000	100.9%	+120	19,880	850	104.9%	+90	760
連結計	1,032,400	100.2%	+2,600	1,029,800	31,100	88.8%	▲5,300	36,400

主要会社の業績予想 / ユニー



- ・ 上期実績を踏まえ、既存店売上を上方修正する一方、商品荒利率の見直しと販管費の積み増しにより営業利益を152億5千万円へ修正

(単位：百万円)	14/2期(修正予想)			当初計画
		前期比	当初計画差	
営業収益	771,200	100.3%	+6,000	765,200
営業総利益	217,438	100.6%	▲698	218,136
販管費	202,188	100.4%	+552	201,636
営業利益	15,250	102.8%	▲1,250	16,500
経常利益	13,850	76.3%	▲1,350	15,200
当期純利益	6,430	70.7%	▲780	7,210
既存店前年比	100.1%	(前期実績97.2%)	+1.1%	99.0%
商品荒利率	24.4%	+0.1%	▲0.3%	24.7%
期末店舗数	229店	+2店	▲3店	232店
出店数	5店	+1店	▲1店	6店
閉店数	3店	▲1店	+2店	1店

※ 既存店前年比は曜日調整後の計画値

主要会社の業績予想 / サークルKサンクス



- ・ 上期実績を踏まえ、営業指標を見直し
- ・ 純利益は店舗システム入替に係わる特別損失の計上により減少

(単位：百万円)	14/2期(連結・修正予想)			当初計画
		前期比	当初計画差	
営業総収入	151,300	98.0%	▲4,120	155,420
営業総利益	126,970	99.7%	▲5,830	132,800
販管費	114,210	104.7%	▲2,082	116,290
営業利益	12,760	69.9%	▲3,750	16,510
経常利益	12,800	73.0%	▲3,040	15,840
当期純利益	4,400	54.9%	▲3,720	8,120
既存店前年比	97.6%	(前期実績95.2%)	▲2.4%	100.0%
商品平均値入率	27.05%	▲0.22%	▲0.4%	27.45%
期末店舗数	5,960店	+225店	▲26店	5,986店
出店数	459店	+63店	▲21店	480店
閉店数	234店	+25店	+5店	229店

主要会社の業績予想 / さが美・パレモ・UCS



● さが美(連結) 営業収益および営業利益ともに当初計画を据え置き

(単位：百万円)	14/2期(修正予想)	前期比	当初計画差	当初計画
営業収益	23,230	69.9%	－	23,230
営業利益	▲145	－	－	▲145
既存店前年比	102.7%	－	－	102.7%

● パレモ 営業利益は前期とほぼ同額

(単位：百万円)	14/2期(修正予想)	前期比	当初計画差	当初計画
営業収益	37,600	94.8%	+100	37,500
営業利益	420	101.4%	▲160	580
既存店前年比	96.9%	－	▲0.1%	97.0%

● UCS 上期実績を踏まえ、営業収益・営業利益ともに上方修正

(単位：百万円)	14/2期(修正予想)	前期比	当初計画差	当初計画
営業収益	17,300	103.4%	+300	17,000
営業利益	3,100	123.4%	+350	2,750
カード会員数	315.0万人	100.2%	－	315.0人

連結設備投資計画

- ・ユニーでは主に来期以降に開店する店舗に対する先行投資が増加
- ・サークルKサンクスでは出店数の増加に伴う新設店投資と店内設備導入に伴う既存店投資の増加により増加

(単位：百万円)	13/2期	14/2期(修正計画)			当初計画
			前期比	前期差	
ユニー	16,517	44,598	270.0%	+28,081	46,306
UNY (HK) CO., LIMIED	103	40	38.8%	▲63	39
サークルKサンクス(連結)	27,769	34,010	122.5%	+6,241	34,040
さが美(連結)	146	263	180.1%	+117	300
パレモ	728	1,200	164.8%	+472	1,200
モリエ	24	62	258.3%	+38	64
連結計	47,472	82,100	172.9%	+34,628	83,600

※リース投資を含む工事ベース

業績予想に関する注意事項

本資料は、「ユニーグループ・ホールディングス株式会社とその関係会社」(ユニーグループ)の過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらの予測・予想・計画は、発表した時点で入手できる情報に基づいたものであり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果が本資料に記載した予測・予想・計画と異なる可能性があります。従って、本資料における業績予想などの記載が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、予めご了解ください。なお、ユニーグループおよび関係者は、予測・予想・計画と異なる事象が発生した場合においても、なんら責任を負うものではありません。